

令和6年度病虫害発生予察情報 注意報 第2号

令和6年7月31日
岩手県病虫害防除所

斑点米カメムシ類の多発が予想されます。 水稻の生育に合わせ、穂揃期1週間後の薬剤防除を徹底しましょう。

- 1 対象作物、病虫害 : 水稻、斑点米カメムシ類 (特に、アカスジカスミカメ)
- 2 対象地域 : 県下全域
- 3 発生量 : 多
- 4 予報の根拠
 - (1) 基準圃場 (北上市: イタリアンライグラス主体の雑草地) では、カスミカメムシ類の発生が急増しており、特に、アカスジカスミカメ (写真) の発生が平年より多い (図1)。
 - (2) 7月17~26日に実施した水田畦畔におけるすくい取り調査 (73圃場) の結果、特に、アカスジカスミカメの平均捕獲虫数が平年よりかなり多い30.9頭 (平年13.6頭) で過去10年間で最も多い (表1)。
 - (3) また、水稻の出穂開花が始まった水田やホタルイ等が発生している水田内では、アカスジカスミカメ等のカメムシ類が確認されている。
 - (4) 8月の気温は平年より高い予報であり、斑点米カメムシ類の水田内への侵入や加害が活発になる可能性が高い。

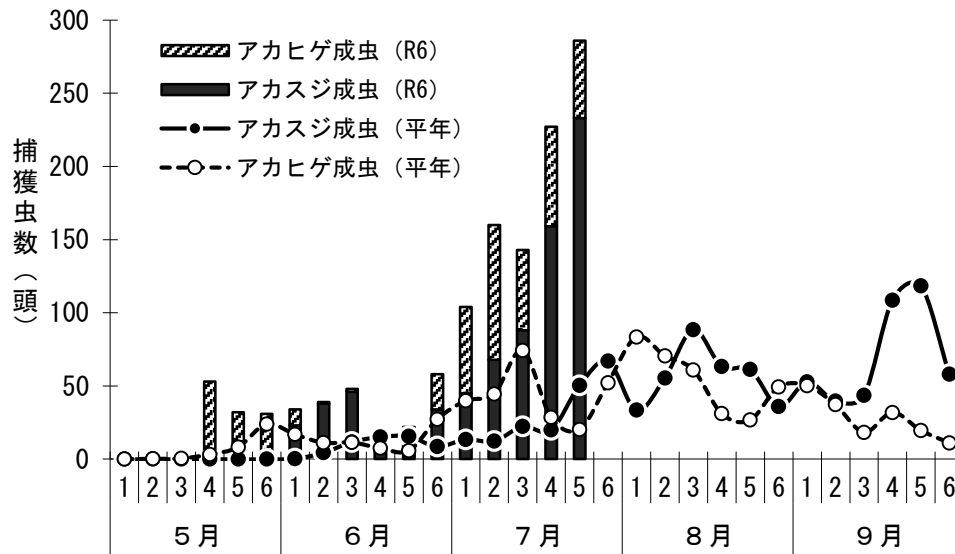


図1 基準圃場(北上市)における斑点米カメムシ類の発生消長(7月第5半旬現在)

注) 農業研究センター内イタリアンライグラス主体雑草地往復20回振すくい取り
アカスジ: アカスジカスミカメ、アカヒゲ: アカヒゲホソミドリカスミカメ

表1 カスミカメムシ類の発生状況 (7月下旬巡回調査、水田畦畔、往復20回振すくい取り)

年次	発生圃場率 (%)	平均捕獲虫数 (頭/発生圃場)		
		アカスジカスミカメ	アカヒゲホソミドリカスミカメ	カスミカメムシ類幼虫
本年	54.8	30.9	4.8	13.2
平年	53.4	13.6	5.4	15.5

5 防除対策

- (1) 茎葉散布による水稲の穂揃期1週間後の基本防除を徹底する。県全体の水稲の出穂期は平年より2日早まる見込みのため（令和6年度農作物技術情報第5号水稲）、圃場の出穂状況を確認し、適期防除に努める。
- (2) 水田付近に出穂開花したイネ科植物（イタリアンライグラス等）を含んだ牧草地等がある場合や、本田内にノビエ、イヌホタルイ、シズイが多発している圃場では、カメムシ類の発生量が多くなる可能性が高いため、圃場をよく観察し水稲の穂揃期2週間後の追加防除を実施する。
なお、1回目の防除（水稲の穂揃期1週間後）にジノテフラン剤（アルバリン剤、スタークル剤）を使用した場合には、水稲の穂揃期3週間後に追加防除を実施する。
- (3) 登熟期間が高温で経過すると、割れ粃の発生が助長されることがあるため、割れ粃の多い品種（あきたこまち等）は水稲の穂揃期2週間後の追加防除を実施する。
※例年割れ粃が少ない「ひとめぼれ」においても、登熟期間（8月中旬～9月上旬）の高温という気象は、割れ粃の発生リスクとなるため、注意を要する。
- (4) 薬剤による防除は、転作牧草地や雑草地に隣接したところを中心に行い、カメムシ類の生息する畦畔にも散布する。
- (5) 地域一斉に防除すると効果が高い。地域の穂揃期の幅が7日以内の場合、半数の圃場が穂揃期に達した時期の約7日後に一斉防除を実施する。
- (6) 水稲出穂期以降の畦畔の草刈りは、アカスジカスミカメを水田に追い込むリスクがあるため、本田の薬剤散布を実施した後概ね7日以内（薬剤の残効期間内）に実施する。

6 留意事項

- (1) 養蜂活動が行われている地域で殺虫剤を散布する場合は、養蜂家等への防除計画の事前周知に努めるなど、ミツバチの危害防止対策を徹底する。
- (2) 薬剤散布の際は、農薬使用基準を遵守し、周辺への飛散防止に努める。



写真 出穂開花した水稲に寄生するアカスジカスミカメ

～農薬危害防止運動実施中(6/1～8/31)～

【利用上の注意】

- 本資料は、令和6年7月24日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。
- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
 - ・農薬使用の際は（1）使用基準の遵守（2）飛散防止（3）防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html>

